婦人參政を叫ぶお歷々

(二十一日東京青年會館にて)向つて左より遠藤清子、市川房江、本塚明子、山田わか子、奥女史、塚本仲子、

……野の○洲氏、村山俊根其から、陣取つて演壇の上で大部君を片人のやうな……かせて二十分會は……りて開會を……から彼の福々くを……感ぜばせて……は協力一致……賛成を期……なる音吐で民家は拍手……頭に選した

講演

二日は午後……に女史一味

……權威ある政見を有たねばならぬと言ひ遠藤清子女史は明治三十八年に同じ運動をした時の實驗談を述べ大庭柯公、大山郁夫、植原黒須の諸氏が女子參政の爲大に氣を吐いた聽衆は男子七分女子三分午後五時半散會した(東京電話)

に新婦人協會の事業から今度の議會運動の經過並に與謝野晶子、山川氏等の批評に就て辯駁を加へ、山田わか子女史は家庭擁護の爲に婦人の反省を叫び米國婦人が政權に參して失敗したのは男子の模倣な

農相の言質で 白仁長官を追及

「外米と乾物ばかり喰つてゐるので腹が定まらぬ」と

鈴木、木村兩氏との會見 飛んでもない瓢簞鯰

一週間も網を張つて白仁長官の歸京を待ち受けて居た八幡製鐵所事件上京委員の一人木村錠吉君は二十日長官歸來の報を得二十一日午後鈴木文治君と共に議會に長官を追ひかけて來て到頭政府委員室で會見を遂げた

十六日職工代表と農相と會見した時農相は「時間制改正の事なら長官の權限にあるのぢや」と言つたので兩君は大に此點で長官をウンと言はせて見ると云ふ凄じい意氣組みだつたが今度は頗る沒要領で木村君が「八幡製鐵所の周圍が皆……行不可能の理由を承りたい大臣は貴君のお考へ次第で如何にもなると言はれました」と突込んでも長官は「何うも未だ出來兼ねる」と答へ鈴木君が「貴君が勞働者の爲めに地位を賭して斷行を願ひたいものですが」と言へば「イヤ此際私……ぬ」と逃げ「米は高いから私は近來内地米を一粒も喰はぬ外米ばかりだ副食物は干大根に煮乾魚を入れて喰ふのに定めてある、女中は不平を言ふから一圓宛増してやつてある鈴木君來給へ御馳走して上げるよ」ミトボケて仕舞ふので兩君は尚も追及したが遂に要領を得ずに引揚げた(東京電話)

森戸氏筆禍事件公判 傍聽滿願の日

緊張した兩被告夫人の面持

判決は三月一日の豫定

森戸、大内兩氏筆禍事件の續行公判は二十二日も日曜ながら午前十時半から開廷、例により特別傍聽人席には上野、高野兩博士以下學生辯護士等二十數名が謹聽する兩被告夫人は「今日こそ傍聽滿願の日です」と云つたやうな面色で殊に和子夫人は四十近き束髪の夫君辰男氏令妹せい子を伴うて傍聽した眞野辯護士の辯論に次いで花井博士は十一時二十分から約一時間餘に亙つて

新聞紙條例の朝憲紊亂の意義を闡明し本事件が此條例に接觸せざる所以を説き更に歐洲大戰後の世界思想の動搖より延いて森戸氏の論文が何等社會に危險を及ぼすもの……

來る三月一日午前九時言渡さるゝ豫定であるが若し鵜澤博士の辯論が他日に延期さるれば判決も自然未定に歸すると云ふことである(東京電話)

洋服

合服地新荷着仕候

……の取立て一週間掛……長崎には……り(長崎……

英

米國軍用……日香港上……二百噸を……午後三時……ライル號……後五時半……向け二十五……來りて同……崎電報)

觀覽

活

九州に於ける……んとする……對運動……ずと意氣……なるが……業者は……眞大會……て相聯……して……着手する……